

## まえがき

著者	玉村 千治, 桑森 啓
権利	Copyrights 日本貿易振興機構 (ジェトロ) アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) <a href="http://www.ide.go.jp">http://www.ide.go.jp</a>
シリーズタイトル	研究双書
シリーズ番号	609
雑誌名	国際産業連関分析論 : 理論と応用
ページ	i-ii
発行年	2014
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2344/00011257">http://hdl.handle.net/2344/00011257</a>

## まえがき

アジア経済研究所（アジ研）では、1970年代以降、アジア太平洋地域を主たる対象とする国際産業連関表の作成を、現地の統計機関や研究機関と共同で行ってきた。これまでにアジ研が各国の共同研究機関と作成した国際産業連関表は30を超える。そして、このほど新たに2005年を対象としたアジア国際産業連関表が完成した。本書は、2005年アジア国際産業連関表の完成を機に、アジ研がこれまでに作成してきた国際産業連関表について、その歴史、作成方法および理論的基礎を包括的に整理するとともに、アジア太平洋地域を対象とした基本的な分析事例を加えて、今後の作成・分析両面の発展に資する国際産業連関論の研究書となることを企図して作成された。

近年、アジア太平洋地域では自由貿易協定の締結や新興国の台頭などを背景として、貿易や投資を通じた各国間の経済的相互依存が急速に深化しつつある。こうした貿易・投資の進展は、アジアにおいても工程間分業などの多様な分業形態を生み出し、これらの国々の経済的な相互依存関係はいっそう複雑になっている。このような複雑化した経済的相互依存関係を把握・分析するための手段として、国際産業連関表を用いた分析が注目を集めており、アジ研が作成している国際産業連関表に対するニーズも高まっている。その意味でも、本書は近年のアジアにおける経済相互依存関係の分析に一定の役割を果たしうると考える。

なお、本書の特徴のひとつとして、国際産業連関表の作成方法に関する検討や経緯の紹介にも力点を置いたことがある。それは、40年以上にわたり続けられてきたアジ研の国際産業連関表作成事業のなかで蓄積・定着してきた作成方法論である。現在では、過去からの複数の表が蓄積され、対象各国間の経済依存構造の歴史的な変化もとらえることができるようになり、経済発展過程の視点からなど多方面の分析を可能とし注目を集める一方で、その基盤となる作成方法への研究注力については言及されることが少なかった。国

際産業連関表の統計資料としての価値を一貫して重視し、地道に作成が続けられてきたという点にも鑑みて、本書では表作成方法の詳細を広く紹介することにした。国際産業連関表作成に携わる人々への一助になるものとする。

本書は、2011年度から2012年度にかけて組織されたアジ研の「国際産業連関分析論」研究会（主査 玉村千治，幹事 桑森啓）の最終成果である。本成果も、先に述べたアジ研の長年にわたる産業連関表作成事業を担った多方面の方々のご尽力と蓄積されてきた知見の上に成り立っている。こうした多くの方々の名前を一人ひとり挙げることは不可能であるが、ここに深い感謝の意を表したい。

最後に、本書の審査過程において、匿名の所内および所外のレフェリーからは、丁寧かつ有益なコメントを数多く頂いた。記して御礼申し上げる次第である。なお、頂いた貴重なアドバイスを十分反映できなかった部分があるとすれば、それらはすべて編者の責任によるものである。また、本書の編集全般にわたってアジ研の出版企画編集課の井村進氏に大変お世話になった。あわせて感謝申し上げたい。

2014年1月

編 者